

令和 2年度 行政評価事業別シート

	実計対象	<input checked="" type="checkbox"/>	評価対象	<input checked="" type="checkbox"/>	新規	<input type="checkbox"/>	完了事業	<input type="checkbox"/>	ゼロ予算事業	<input type="checkbox"/>	担当者	長野 丸山
	全体計画	平成30年度 ~ 令和 2年度			経費区分	実施計画事業費		内線	3254			
事務事業名	14638 小規模水道施設整備事業											
所 属	121000 市民環境部・生活環境課											
施 策	06023200 水環境の保全と水道水の安定的な供給											
予算科目	会計	01 一般会計										
	科目	040301 衛生費・水道費・水道費										
	事業	020000 小規模水道施設整備事業										
事業目的						事業概要・効果						
峰の原地区の住民に安心して安定的な水を供給する。						<ul style="list-style-type: none"> ■峰の原高原内の(株)守谷商会別荘地区の水道事業について、平成31年4月1日より「須坂市峰の原高原飲料水供給施設」として市営化による運営開始 ■H30 - H31実施設計業務委託 ■H31 - R2水道施設設備更新工事 						

PLAN-DO
年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 実績
平成29年度 実績	平成30年度 実績
	実施設計業務委託 47,974千円 (H31へ繰越) 設計監理業務負担金 (水道局) 500千円
平成31年度 実績	令和 2年度 予定
水源取水ポンプ作製・設置工事 2,736千円 給水末端残留塩素計設置工事 12,636千円 債務負担行為により計5工事発注 積算監理業務負担金 (水道局) 6,600千円	<ul style="list-style-type: none"> ■仮配管設置・送配水管布設替・配水支管布設替・高区配水池築造・水源原水受水槽及び送水ポンプ室築造・機械電機計装設備工事 ■積算監理業務負担金 (水道局) 9,900千円

指標名						単位	
算式						単位	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度目標の根拠							
指標名						単位	
算式						単位	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度目標の根拠							
指標名						単位	
算式						単位	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度		
目標値	目標						
	実績						
指標選定の理由							
最終年度目標の根拠							

事業費

(単位：千円)

		平成31年度 決 算	令和 2年度 予 算
事業費		222,652	376,610
特定財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	0
	地方債	202,500	342,700
	その他	0	0
一般財源		20,152	33,910
人員数(人)	正規職員	0.6	0.6
	嘱託職員	0.3	0.3
	臨時職員	0.0	0.0
人員コスト	正規職員	4,359.0	4,359.0
	嘱託職員	848.7	848.7
	臨時職員	0.0	0.0
	計	5,207.7	5,207.7
市民一人当たりの経費		4.4	7.3
総額		227,859.7	381,817.7

(単位：千円)

平成31年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	0	
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	216,052	
19節 負担金補助及び交付金	6,600	積算監理業務負担金(水道局)
その他	0	

(単位：千円)

令和 2年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
7節 報償費	0	
10節 需用費	0	
12節 委託費	0	
14節 工事請負費	366,710	
18節 負担金補助及び交付金	9,900	積算監理業務負担金（水道局）
その他	0	

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか 	必要不可欠
評価コメント	老朽化した水道施設設備を更新し、区域内住民への将来に亘る安定給水を維持確保する。	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか 	有効
評価コメント	現行設備の更新ではなく、水道管を耐震化対応のものに更新、配水池の構造をRCからステンレス製にするなど、今後の維持管理メンテナンスを考慮したものにし、新規に残留塩素計測装置を設置して遠隔で確認できるものとした。工事方法も仮配管を組み隣接する市水道から分水による水の提供を受けることで、工事期間中の安定給水の確保が出来て工事期間も短縮となる。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか 	やや向上
評価コメント	辺地対策事業債を活用。 水道施設設備の更新に際し、配水池の容量やポンプの大きさを使用現況に応じた規格に縮小するなど、適正規模の施設設備に更新した。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

H31年度からの債務負担行為による5工事とR2年度で機械電機計装設備工事の発注が完了した。工事に伴い、11月末完成、12月に新施設設備による給水開始を目標に、事故等無く安全に完成するよう、工事受注の6事業者及び地元住民や仁礼会等と連絡調整を図った。

ACTION

1次評価

2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続	次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
総合評価コメント		2次評価コメント	
事故なく工事の竣工を目指し、竣工後は峰の原地区の住民に安心安全な水の供給に努める必要がある。		行程どおりに事故なく工事が竣工するよう進捗管理（事務処理も含め）を確実に進行。	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	